

## キャプテンズ・ミッション

平成 18 年度上期 CHQ 業務目標 (サマリーバージョン)CHQ 業務全般

CHQ(キャプテン・ヘッドクォーターズ)の 2006 年度上期の活動目標は、JFA と地域／都道府県協会の業務指針を徹底するとともに、各都道府県協会の積極的な活動をサポートし、都道府県協会と協働して、日本サッカーの改革・発展を推進することである。業務遂行に際しては、「CHQ Compliance」に基づき、特に、双方向のコミュニケーション・スピード・期限厳守・会計の透明性を重視したい。

また、「JFA2005 年宣言」を多くの関係者と共有し、サッカーファミリーに浸透させるとともに、JFA 事務局および都道府県協会における意識の改革と具体的アクションの更なる推進・具現化を図りたい。

特に、重要テーマである組織機構改革と未登録チームの登録推進については、改革をスタートした都道府県協会をフォローしていきたい。

上期も、全国を積極的に巡回し、「キャプテンズ・ミッション」を地域／都道府県協会を中心に強力で推進するとともに、国内のみに留まらず国際的な活動も積極的に行い、JFA が 2015 年には世界のトップ 10 に仲間入りできる様、様々な挑戦を行いながら日本サッカーの普及と強化に努めていく。

M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進 ～JFA メンバー 200 万人構想に向けて～

JFA 内の各部署と連携しながら JFA 内の全体的な業務推進体制を改善・構築し、登録者への全体メリット／ベーシックサービス・カテゴリー毎の個別メリットの検討・充実を図り、未着手のカテゴリーを含めた各カテゴリーの登録制度を構築・推進する。また「JFA メンバーズサイト」を整備・活用し、登録者に対する積極的な情報提供および登録意義／メリットや登録料の活用方法等の明確化・積極的な PR に努める。

M 2:施設の確保・活用

施設委員会(事業部)・記念事業推進委員会・他のミッション等と連携しながら、プロジェクトでの取り組みを中心に、施設リーフレット／ガイドブックの作成・JFA 独自の施設整備支援制度の導入等、全国での施設の確保・活用に向けた具体策の検討・実施を進める。また都道府県協会の活動支援・事例の紹介・問い合わせ対応等を引き続き行うとともに、施設関連団体等との連携を図る。

M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

「モデル FA」の活動を中心に、全国レベルで「JFA キッズプログラム」の様々な活動を強力で推進する。各都道府県においては、将来に向けた継続的な取り組みとして、キッズを中心に様々な取り組みと連動させながら、地域に根差した活動を更に定着させていく。そして、J リーグアカデミーとの更なる連携に加え、他スポーツ競技団体や教育団体・自治体・省庁等にも積極的に交流を図り、協働していく。また、2008 年度以降の全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討する。

M 4:中学生年代の活性化

事業部・技術部等と連携しながら、「トライアル FA 制度」の対象 FA を中心に、中学生年代における諸課題の解決・改善に向けた具体策の実施・フォローアップに引き続き取り組むとともに、都道府県協会との更なる情報共有に努める。また文部科学省・中体連等の関係各所との積極的な情報交換・連携を行う。

## M 5:エリート養成システムの確立

---

「リード FA」の活動を中心に、具体的実施プログラム・タレント発掘／養成活動・指導者の養成・保護者への啓発活動等を推進する。キッズ年代のエリート教育の取り組み意義が理解される様、都道府県協会を中心に積極的に展開するとともに、Jリーグアカデミーとの連携や他スポーツ競技団体や教育団体・自治体等、広く世間にアピールする。また、2008 年度以降の全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討する。

## M 6:女子サッカーの活性化 ～競技人口の拡大～

---

競技人口の拡大に向け、女子チームを紹介するサイトの新設等の諸施策を推進するとともに、「トライアル FA」の活動を中心に様々な活動をサポートする。これらの活動に際しては、JFA 女子委員会と連携を図り、都道府県協会・都道府県協会女子委員会と情報を共有しながら推進する。また、2008 年度以降の「トライアル FA 制度」の支援策(対象 FA の拡大・補助金の金額設定・具体的支援内容等)の検討を進める。

## M 7:フットサルの普及推進

---

「トライアル FA」の活動やファミリーフットサルフェスティバルの開催を通じて、各都道府県での課題解決になり得る様、様々な事例を全国に積極的に展開し、更なる活性化を促す。FIFA の登録や移籍に関する規定を検証し、登録制度のあり方から含めた内容を整理し、具体的な改革案の策定について検討する。フットサル委員会と連携しながら、日本体育施設協会等と協働して、施設や関連団体に提供できるメリットの検討や、協働体制の確立を図る。また、2008 年度以降の「トライアル FA 制度」の支援策(対象 FA の拡大・補助金の金額設定・具体的支援内容等)の検討を進める。

## M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

---

CHQ・事業部・技術部等の各種施策とリンクしながら、普及・強化の両面におけるリーグ戦の更なる浸透・意識向上を都道府県・地域・全国において推進する。また展開済みの「JFA 試合運営ガイドブック」・「競技ガイドライン」を適宜改訂した上で更なる活用策を検討するとともに、各種リーグ戦の整理・過密日程解消および全国大会の検証・改善にも取り組む。

## M 9:地域／都道府県協会の活性化

---

都道府県協会との双方向コミュニケーションを常に心がけ、各種会議／イベント等に参加し、各都道府県協会の積極的な活動をサポートする。そして都道府県協会の法人化・常勤事務局体制の整備・会計の透明化を更に推進する。重要テーマである組織機構改革と未登録チームの登録推進について、都道府県での活動状況・課題等の実態把握および活動支援を行う。「チャレンジ FA 制度」については、対象協会の活動をフォローアップし、好事例の展開・制度の充実および 2007 年度以降の支援策の検討を行なう。また昨年度に提示した「業務指針／マニュアル」をより効果的な資料とすべく、位置付けの再検証および内容の改訂を行い、都道府県協会と共有した上で、JFA の運営にしっかりと反映させる。

## M10:中長期展望に立った方針策定と提言

---

「JFA2005 年宣言」について、多くの関係者と共有し、サッカーファミリーに更に浸透させる。JFA においては、事務局員の意識調査や部長研修会でのフィードバック等を通じて、「アクションプラン 2015」「業務プラン 2008」を一人一人が常に意識し、日常の業務に取り組む様努める。そして、人事研修プログラム等の具体的な施策を計画し、意識の改革を推進していく。都道府県協会に対しては、好事例を展開し、「JFA2005 年宣言」や「キャプテンズ・ミッション」を中心とした独自の目標の設定や具体的アクションを推進する。また、常に中長期展望に立った広い視野を持って日本サッカー界の動向を見据え、既存の業務内容の検証や取り組むべき新規事業・施策、特に日本サッカー界全体の事業規模拡大に向けての具体的な施策を検討する。「CHQ フューチャープロジェクト」においては、「JFA2005 年宣言」の具現化に加え、都道府県協会の事業規模拡大や施設の確保・活用等の具体的な施策について引き続き議論していく。シニア年代については「トライアル FA 制度」を中心に活性化を図る。

## キャプテンズ・ミッション

平成 18 年度上期 CHQ 業務目標

## CHQ 業務全般

CHQ(キャプテン・ヘッドクォーターズ)の 2006 年度上期の活動目標は、JFA と地域／都道府県協会の業務指針を徹底するとともに、各都道府県協会の積極的な活動をサポートし、都道府県協会と協働して、日本サッカーの改革・発展を推進することである。業務遂行に際しては、「CHQ Compliance」に基づき、特に、双方向のコミュニケーション・スピード・期限厳守・会計の透明性を重視したい。

また、「JFA2005 年宣言」を多くの関係者と共有し、サッカーファミリーに浸透させるとともに、JFA 事務局および都道府県協会における意識の改革と具体的アクションの更なる推進・具現化を図りたい。

特に、重要テーマである組織機構改革と未登録チームの登録推進については、改革をスタートした都道府県協会をフォローしていきたい。

上期も、全国を積極的に巡回し、「キャプテンズ・ミッション」を地域／都道府県協会を中心に強力に推進するとともに、国内のみに留まらず国際的な活動も積極的に行い、JFA が 2015 年には世界のトップ 10 に仲間入りできる様、様々な挑戦を行いながら日本サッカーの普及と強化に努めていく。

## M 1:「JFA メンバーシップ制度」の推進 ～JFA メンバー200 万人構想に向けて～

- 全体メリットの検討・提供と登録意義・メリットの積極的な PR
  - 全体メリット／ベーシックサービスの検討・提供  
登録者に対する全体メリット／ベーシックサービスの検討・提供を行う。
  - 登録意義(参加／仲間意識等)・メリットの PR  
「JFA2005 年宣言」に基づき、サッカーファミリー増加の意図・効果や、登録の意義・参加／仲間意識および登録料の活用方法等を明確にし、登録メリットと併せて積極的に PR する。
- 各カテゴリーの登録制度の推進
  - サッカー施設エントリー／登録  
「M2.施設の確保・活用」や施設委員会等と連携し、対象・方法・メリット等の整理を進め、制度の構築を目指す。
  - キッズ(U-6)メンバーエントリー／団体エントリー／団体登録  
「M3.『JFA キッズプログラム』の推進」や「モデル FA(キッズ)」と連携し、キッズ(U-6)メンバー／キッズ(U-6)団体のエントリーについて、JFA 全体としてのエントリー申請方法を策定し、都道府県協会に展開する。キッズ(U-6)団体登録についても、方法・メリット等を検討し、制度の構築を目指す。
  - チーム／選手登録  
登録・普及部を中心に、登録者・登録を受ける側の双方にとって処理し易い登録システム構築に向け、引き続き検討を行う。また CHQ/JFA の各種活動等を通じて登録がより促進されていく様、適宜サポートを行う。
  - フットサル個人登録／大会登録／施設登録  
フットサル委員会・登録・普及部・事業部および「M7.フットサルの普及推進」と連携し、個人登録／施設登録を含め制度全体を引き続き検証し、都道府県協会と連携した、より簡便で使い易い登録制度・システムの改善・構築や登録促進策の検討・実施を行う。

- 審判員登録／審判インストラクター登録  
審判部を中心に、Web 化に伴う都道府県協会・審判員双方への負担軽減やシステムの安定稼働について検討・実施する。
  - 指導者登録  
技術部を中心に、「JFA メンバーズサイト」・「コーチ・スクエア」等の充実および登録制度・システムの改善に引き続き取り組むとともに、登録メリットをアピールする。また新制度への移行手続きが済んでいない指導者の登録を引き続き推進する。
  - 協会役員登録  
本業務は 2004 年度に総務部に移管した。制度の充実に向けたサポート等を適宜行う。
  - 運営スタッフエントリー／登録  
事業部を中心に、対象・方法・メリット等を整理・検討し、都道府県協会の実例を参考にしながら、制度の構築を目指す。
  - ファン登録  
日本代表戦チケットの事前登録制販売方式の登録者や Jクラブのファン等を含め、既存カテゴリーの登録者以外の様々なファンを受け入れるカテゴリーとしての位置付けおよび方法・メリット等を検討・整理し、制度の構築を目指す。
- 「JFA メンバーズサイト」の整備・活用
- 「JFA メンバーズサイト」の整備・充実と各カテゴリーへの展開  
スポンサーとの関連に注視しながら、登録メンバー向けサイト「JFA メンバーズサイト」の整備・充実を図り、指導者等の既存カテゴリー以外(審判・ファン等)への展開を目指す。
  - 「JFA メンバーズサイト」を活用した登録者に対する積極的な情報提供  
「JFA メンバーズサイト」を活用し、登録者に対する有益かつ効果的な情報提供を行う。
  - JFA ホームページプロジェクトとの連携  
JFA ホームページプロジェクトの取り組みと密に連携し、ユーザーにとって分かり易く、運営も効率的に行える仕組みを構築する。
- 都道府県協会との連携および業務推進体制の構築
- 都道府県協会との連携  
都道府県協会からの意見等を十分に把握し、常に連携に努める。
  - 業務推進体制の強化  
各カテゴリーの JFA 内の役割分担を再確認した上で業務推進体制を強化する。
  - 「JFA メンバーズサイト」運営体制の構築  
「JFA メンバーズサイト」の運営について、JFA ホームページプロジェクトの取り組みや関係団体と密に連携しながら、JFA 内部の体制を充実させる。

## M 2:施設の確保・活用

---

- プロジェクトの推進
- 施設整備支援制度の検討・策定  
都道府県協会フットボールセンターも視野に入れた、全国の施設新設のための施設整備支援制度を検討・策定する。
  - パートナーシップ制度の検討・策定  
施設の確保・活用に関する JFA の考え方に共感し、ともに取り組んで頂く施設・人々の受け皿となるパートナーシップ制度を検討・策定し、施設の登録および施設の新設・管理のための人材育成等を行う。

- リーフレット／ガイドブックの作成・展開  
JFA の取り組み・施設に関する考え方・各種好事例／情報等を掲載したリーフレット／ガイドブックを作成・展開し、積極的に PR・活用する。
- JFA ホームページでの施設関連サイトの作成・活用  
施設の確保・活用に関する各種情報の集約・展開およびプロジェクトの取り組みの PR に向け、JFA ホームページにおける施設関連サイトを作成し、積極的に PR・活用する。

➤ **施設関連の情報収集・提供と取り組み推進**

- 全国の施設情報の集約・展開  
利用可能な施設を求めるチーム／選手への情報提供や利用率の低い施設の有効活用を図るため、プロジェクトや都道府県協会および関係各所と連携し、全国の施設情報の集約・展開を行う。
- 既存施設開放の好事例の集約・展開  
プロジェクトや CHQ／JFA の各種取り組みおよび都道府県協会・関係各所と連携し、既存施設開放に関する好事例等を集約・展開する。
- 施設(学校／行政等の所有)の開放・積極的利用の促進  
学校／行政／民間等の所有施設について、施設関連団体・行政等と連携して利用実態の調査・把握に努め、プロジェクトや CHQ／JFA の各種取り組みおよび都道府県協会と連動し、施設の開放・積極的利用を促進する。
- 天然芝／ロングパイル人工芝の普及・促進  
プロジェクトや施設委員会(事業部)・記念事業推進委員会と連携し、天然芝／ロングパイル人工芝の普及・促進(設置・維持管理のノウハウ提供)を行う。
- 学校施設等での夜間照明施設の整備推進  
プロジェクトや施設委員会(事業部)や記念事業推進委員会と連携し、学校施設等の有効活用・開放に繋がる夜間照明施設の整備推進を行う。

➤ **都道府県協会および関係各所との連携**

- 都道府県協会との連携  
都道府県協会からの意見等を十分に把握し、常に連携に努めるとともに、関連情報の展開や活動支援を行う。
- 施設関連団体・学術機関・行政等との連携  
施設に関する専門情報やノウハウを有する施設関連団体・学術機関・行政等との積極的な連携に努め、積極的な情報交換を行う。また、全国の施設利用実態やサッカー界の実情をもとに、必要に応じて制度の改定や支援等を求める。
- 「指定管理者制度」に関する情報提供・支援  
「指定管理者制度」について、各都道府県協会が制度の導入を検討できる様、関連する情報や具体的な事例を「M9.地域／都道府県協会の活性化」と連携して展開するとともに、推薦文書の発行等を通じて都道府県協会の活動を支援する。
- 「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備助成」・「JFA スポーツマネジャーズカレッジ」の推進  
「2002 FIFA ワールドカップ記念事業」の施策である「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備助成」・「JFA スポーツマネジャーズカレッジ」を活用し、全国の施設新設や施設運営・管理等の人材育成を推進する。

### M 3:「JFA キッズプログラム」の推進

---

#### ➤ 「JFA キッズプログラム」の確立と意義のアピール

- 取り組み内容の明確化  
「JFA キッズプログラム」として明確化された具体的な取り組み事項について、引き続き全国に更なる浸透・徹底を図る。都道府県協会において、キッズを中心に様々な取り組みと連動的に活動を広げる事例を積極的に紹介し、キッズサッカーの取り組みを通じ、支部・地区協会／市区郡町村協会への事業展開・補助金の活用等での連携強化が図られる様、更なる働きかけを行う。
- JFA キッズハンドブック／リーフレット等の製作および展開  
適宜改訂・増刷したハンドブックやリーフレット、ならびにドリル集「JFA キッズドリル」を有効に活用し、「JFA キッズプログラム」の更なる浸透を図る。特にこの取り組みの意義を広く世間にアピールし、教育団体・自治体のみならず、他スポーツ競技団体・省庁等への積極的なアプローチを進めていく。
- 保護者への啓発活動  
技術委員会・都道府県協会と連携を図り、保護者向けのハンドブック等の展開や都道府県における講習会・セミナーの実施、ならびに各種企画・イベントとの連携等、保護者への啓発活動を積極的に行っていく。
- Jリーグアカデミーとの連携  
JFAとJリーグアカデミーの組織・役割の整理を更に進め、常にJリーグアカデミーと情報共有しながら、キッズサッカーの普及を推進していく。特に都道府県レベルにおける J クラブと都道府県協会での連携や活動内容の棲み分け・役割分担を明確にし、地域全体の活性化に繋がるいくつかの事例を積極的に紹介しながら、協働できる環境作りを更に推進する。
- 他競技団体や教育団体・自治体等との協働  
サッカー界のみならず他スポーツ競技団体や教育団体・自治体・省庁等にも「JFA キッズプログラム」の取り組みの意義が理解される様、積極的に交流を図り、協働していく。各都道府県においては、既存クラブ／NPO 等の活用・幼稚園等の正課への採用・小学校の授業へのキッズリーダーの派遣・自治体主催行事とのタイアップ・自治体施設の活用等、教育委員会や自治体からの支援も視野に入れた具体的な活動を推進していく。いくつかの具体的な事例を紹介しながら、将来に向けた継続的な取り組みとして、地域に根差した活動を定着させる。

#### ➤ 「モデルFA 制度」の推進

- 対象FA のフォローアップ  
対象FA の活動視察や情報交換、活動報告書の提出等を通じ、活動状況を把握することにより、継続的なフォローアップを行う。また 3 年の期間を終了した「モデルFA」に対して、主に自主採算確立・他事業との連携という観点からフォローアップを行う。
- 制度の充実と好事例の展開  
支援内容の充実や積極的サポートに努め、「モデルFA 制度」自体の充実を図る。また、ジョイントミーティングの開催や JFAnews・ホームページの活用等を通じ、他の都道府県協会の参考となる好事例の抽出と展開を積極的に行う。
- 2008 年度以降の全国展開・支援策の検討  
「モデルFA 制度」は、2007 年度までの支援制度であり、2008 年度からは制度を発展的に解消させ、「JFA キッズプログラム」を全国レベルに拡大展開していく。全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県協会の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討する。

➤ **指導者(キッズリーダーインストラクター／キッズリーダー)の養成・活用**

- キッズリーダー講習会の開催／指導者エントリーの促進  
各都道府県協会で、内容の充実したキッズリーダー講習会を数多く開催して頂き、地域の実情に応じて、保育士・幼稚園／小学校教員・シニア等のキッズリーダー取得を積極的に促進する。また、修了者は全て「JFA メンバーシップ制度」におけるキッズリーダーとしてエントリーしてもらえる様、徹底する。本業務は、技術部の主管業務であるが、CHQとして必要なフォローアップを行っていく。
- 指導機会の創出・提供  
各都道府県協会で、巡回指導や定期的指導者派遣・各種フェスティバル・クリニック・リーグ戦等の活動を数多く行って頂き、キッズリーダーの指導機会を数多く創出・提供することを奨励する。また関連情報の公開により、更なる指導機会が創出される様働きかける。
- 幼稚園等／小学校への巡回指導
- 幼稚園等／小学校への定期的指導者派遣  
各都道府県協会で、幼稚園等／小学校への巡回指導・定期的指導者派遣を行って頂き、その情報を具体的な事例として展開し、活動を更に推進していく。

➤ **各種企画・イベントの実施**

- 「JFA キッズサッカーフェスティバル」の実施  
各都道府県協会と充分連携を図り、独自性を尊重しながら財政補助を中心に様々な形でフェスティバルの開催をサポートしていく。また、技術部・事業部と連携し、JFA アンバサダーとのスケジュール調整等を図りながら、都道府県協会のニーズやサッカーの普及のための諸調整を行う。本業務は、事業部に業務移管しているが、CHQとしても、JFA アンバサダーの体制をより良くするための提言等、必要なフォローアップを行っていく。
- 公式パートナーとの協働と「ユニクロサッカーキッズ！」の開催  
公式パートナーであるユニクロ社と協働の上、特に「ユニクロサッカーキッズ！」を秋田・岡山・福岡の3会場で開催することにより、参加者にサッカーの楽しさを味わって頂き、キッズサッカーのより一層の普及に努める。また、各都道府県で行われる「JFA キッズプログラム」の活動を通じて、公式パートナーとの協働体制を積極的にPRする。本業務は、事業部に業務移管しているが、CHQとして必要なフォローアップを行っていく。
- バッジテスト「JFA キッズゲーム(仮称)」の積極的展開  
新たに導入するバッジテスト「JFA キッズゲーム(仮称)」について積極的な全国展開を検討する。
- クリニック・リーグ戦等の実施  
各都道府県協会で、クリニックやリーグ戦等の活動を積極的に実施して頂き、その情報を展開し、活動を更に推進していく。
- JFA キッズキット等の展開  
「2006 年度 JFA キッズキット」として、ゴール・ボール・コーン・マーカー・ピブスをパッケージ化し、「モデルFA」を中心に自治体・小学校・幼稚園等に展開する。
- キッズパーク(キッズ向け芝生広場)の設置推進  
キッズパークに関して、「モデルFA」等での設置事例と活用状況や評価を調査・把握し、好事例を積極的に展開、各地域での設置を更に推進する。
- 他世代(高校・大学・シニア・女子等)との交流促進  
いくつかの都道府県で実施されているキッズサッカーの活動における他世代(特にシニアを始め、高校・大学・女子等)との交流事例を積極的に展開・奨励することにより、各地域での交流を更に促進し、キッズを中心に様々な取り組みと連動的に活動が広がる様働きかける。
- 各種調査・研究  
「モデルFA」等で実施されている各種調査・研究について、その状況を把握した上で、各都道府県協会の活動の参考となる様、調査・研究内容を積極的に展開する。また、Jリーグアカデミーで行っている各種調査・研究およびスポーツ医学委員会とも連携を図りながら、研究成果の集約を検討する。

## M 4:中学生年代の活性化

---

### ➤ プレー機会の提供と環境の整備

- 指導者の啓発・育成
- 中学校(部活動)での指導者不足への対応
- 外部指導者制度/JFA 有資格指導者派遣制度の積極活用・充実  
中学生年代の活性化に向けた最重要テーマである指導者について、「トライアル FA 制度」の対象 FA において具体的取り組みを進めながら、技術部・事業部等と連携し、指導者資格の年齢制限の検討および指導者養成リーフレットの作成・展開を行い、指導者の啓発・育成に取り組む。また、外部指導者制度や「コーチ・スクエア」における指導者・指導チーム検索システム等について、各都道府県での実態把握および好事例等の集約・展開を行い、積極的な活用を促進する。
- 少人数チームへの対応  
「トライアル FA 制度」の取り組みを進め、合同チームや少人数制サッカーの実態把握を行い、事業部・技術部等と連携し、諸施策の検討・実施や各都道府県における好事例等の積極的な集約・展開を行う。
- 3 年生後半/1 年生前半でのプレー機会の確保  
「トライアル FA 制度」の取り組みを進め、「M8.リーグ戦の推進と競技会の整備・充実」とリンクしながら、諸施策の検討・実施や各都道府県における好事例等の積極的な集約・展開を行う。
- 4 種・2 種との連携
- 競技会の整備・充実
- 学校施設の開放
- 学校体育と社会体育の連携(クラブ化の促進対応)
- 部活動の土日の活動制限への対応
- 女子選手/チームのプレー機会の創出
- ユース審判員の活用・育成支援  
「トライアル FA 制度」や他のミッションでの活動とリンクしながら、事業部・技術部・審判部等と連携し、諸施策の検討・実施や、各都道府県における好事例等の積極的な集約・展開を行う。

### ➤ 「トライアル FA 制度」の推進

- 対象 FA のフォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換、ジョイントミーティング等を通じ、担当者や関係者とのコミュニケーションを密に取りながら活動状況を把握することにより、継続的なフォローアップを行う。
- 制度の充実と好事例の展開  
対象 FA の活動状況を把握した上で、支援内容の充実や積極的サポートに努め、制度の更なる充実を図る。また JFAnews やホームページの活用等を通じ、他の都道府県協会の参考となる好事例等を積極的に抽出・展開する。
- 2007 年度以降の制度/支援策の検討  
対象 FA の活動実態を参考にしながら、2007 年度の制度内容(対象 FA・補助金の金額設定等)および 2008 年度以降の支援策自体を検討する。

### ➤ 関係各所との連携

- 文部科学省・中体連・自治体・学校への働きかけ  
「トライアル FA 制度」を中心とした中学生年代の活性化に向けた各種の取り組み実績をもとに、関係各所(文部科学省・中体連等)と積極的な情報交換を図る。そして、サッカーだけに捉われず広い視野を持ちながら、先方の諸施策(スポーツ振興基本計画等)に協力可能な内容を提案するとともに、必要に応じて制度改定や支援策等を提案し、諸課題の解決を図る。



- 都道府県協会等との積極的コミュニケーション  
都道府県協会の責任者等との積極的コミュニケーションに努め、情報交換の更なる活性化等に繋げる。また「都道府県 3 種委員長ミーティング」で集約した意見等をもとに、JFA が取り組む課題について、事業部・技術部等と連携し、具体的な対応を行う。

## M 5: エリート養成システムの確立

---

### ➤ キッズ年代(U-6~U-10)のエリート教育の検討・実施

- キッズ年代のエリート教育に関する意義のアピール  
キッズ年代のエリート教育の取り組み意義が広く浸透する様、適宜改訂・増刷したハンドブックやリーフレット、ならびにドリル集「JFA キッズドリル」を有効に活用し、都道府県協会を中心に積極的に展開する。更に、サッカー界のみならず他スポーツ競技団体や教育団体・自治体等、広く世間にアピールし、具体的な取り組みにおける協働を働きかける。
- 具体的実施プログラムの策定  
キッズの各年代に適したエリート教育の内容を技術委員会と連携を図りながら検討し、トレセン制度や日本代表の強化をも見据えた JFA 独自の具体的実施プログラムを策定する。特に「リードFA」の活動内容や状況を十分に参考にするとともに、技術委員会を中心とした関係各所と連携を図りながらバジテスト「JFA キッズゲーム(仮称)」・ドリル集「JFA キッズドリル」等も活用し、対応可能な協会での活動を促進する。
- タレント発掘／養成活動  
既にタレント発掘／養成活動に取り組んでいる「リードFA」を中心に、キッズの各年代に適した内容を検証し、エリート教育対象者を選抜する際の目安となる基準を検討する。
- 各種調査・研究  
キッズ年代のエリート教育に必要な調査項目や研究テーマを検討する。特に Jリーグアカデミーやスポーツ医学委員会と連携を図り、実行可能な都道府県協会や組織・団体と具体的な題材や内容を策定の上、実施していく。
- リーグ戦・各種イベント等の実施(受け皿作り)  
キッズ年代のエリート教育を進めるにあたって必要な基盤活動として、リーグ戦や各種イベント等、各都道府県協会での受け皿作りを推進していく。
- 指導者(キッズコーチ)の養成・活用  
特にタレント発掘／養成活動に関しては、技術委員会と連携を図り、選手を見る目と育てる力のあるキッズコーチを養成・活用する。また、バジテスト「JFA キッズゲーム(仮称)」の最終化に際し、「リードFA」の指導責任者等を対象にキッズコーチ研修会等を開催し、指導実践も行う。
- 保護者への啓発活動  
技術委員会・都道府県協会と連携を図り、保護者向けのハンドブック等の展開や都道府県における講習会・セミナーの実施、ならびに各種企画・イベントとの連携等、保護者への啓発活動を積極的に行っていく。
- Jリーグアカデミーとの連携  
常に Jリーグアカデミーと情報共有しながら、キッズ年代のエリート教育を進めていく。各種調査・研究やその他の活動においては、役割分担を明確にし、効率の良い活動を展開する。JFA と Jリーグアカデミーの組織・役割の整理を更に進め、都道府県レベルにおける Jクラブと都道府県協会での連携や活動内容の棲み分け・役割分担をより明確にする。

### ➤ 「リードFA 制度」の推進

- 対象 FA の設定とフォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換、活動報告書の提出等を通じ、活動状況を把握することにより、継続的なフォローアップを行う。

- 制度の充実と好事例の展開  
支援内容の充実や積極的サポートに努め、「リードFA 制度」自体の充実を図る。技術委員会と連携し、「リードFA」の指導責任者とともに、具体的な実施プログラム・バジテスト「JFA キッズゲーム(仮称)」・トレーニング内容・タレント発掘・キッズコーチ養成等の検討を進める。また、ジョイントミーティング・キッズコーチ研修会等の開催や JFAnews・ホームページの活用等を通じ、他の都道府県協会の参考となる好事例の抽出と展開を積極的に行う。
  - 2008 年度以降の全国展開・支援策の検討  
「リードFA 制度」は、2007 年度までの支援制度であり、2008 年度からは制度を発展的に解消させ、キッズ年代エリートプログラムを全国レベルに拡大展開していく。全国展開の手法や具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、各都道府県協会の実情を踏まえて具体的な展開内容を検討する。
- **技術委員会との連携(U-12 以降のエリート教育の実施)**
- 「JFA アカデミー福島」(中高一貫指導)の始動・展開(JFA エリートプログラムの実施)
  - 3 種年代の地区トレセンの活性化
  - トレセン制度/Jクラブとの連携  
技術委員会の主管する上記取り組みについて、CHQ として連携を図る。
- **日本独自の一貫したエリート養成システムの確立**  
技術委員会と連携を図り、キッズ年代から日本代表に至るまで、各年代に即したエリート教育の実施に向けて様々な検討を行う。そして、整理したコンセプトをもとに、トレセン制度や JFA エリートプログラム等、日本代表の強化に直結した日本独自の一貫したエリート養成システムを確立する。

## M 6:女子サッカーの活性化 ～競技人口の拡大～

- **競技人口の拡大/チーム創出**
- 未経験者/初心者へのアプローチ  
各都道府県協会と連携を図り、「JFA レディース/ガールズサッカーフェスティバル」の企画内容に未経験者/初心者を対象とした取り組みを加える等、チーム/選手の増加に努める。
  - 未登録者/チームの登録推進  
JFA ホームページを活用し、全国女子チーム紹介サイトを設置し、チームを探している女子選手がプレーする機会を得られる様に、情報提供を行うとともに登録推進を図る。
  - U-15 女子チーム創出後の活動支援  
「U-15 女子チーム創出制度」を活用して創出された 74 チームが継続して活動ができる様、指導者への情報提供や都道府県協会での競技会設置の促進等、チームのフォローアップを引き続き行う。また全日本女子ユース(U-15)サッカー選手権大会については、地域/都道府県予選の開催、参加チーム/選手の参加状況等を把握し、改革の効果を検証する。
  - 学校部活動/クラブの実態把握と選手の受け皿作りの促進  
「トライアルFA 制度」の対象FA や、「U-15 女子チーム創出制度」を活用して創出されたチーム、更には地域/都道府県協会女子委員会を通じて、学校部活動/クラブの様々な事例を参考にしながら、地域の特性を踏まえ、選手の受け皿作りを促進する。
- **競技会の整備・充実**
- 各種年代の競技会のあり方・方針等の整理  
JFA 女子委員会と協働し、女子の各種年代の競技会のあり方・方針等を整理し、地域/都道府県協会女子委員会へ展開できる様、準備する。特に 3 種年代大会における女子チーム登録選手の参加を認めたことによる、女子選手のプレー機会拡大策の効果について検証する。

- レディース年代の競技会の充実  
事業部・女子委員会と連携しながら、「全国レディースサッカー大会」および地域／都道府県予選におけるチームの参加促進や「トライアル FA」の活動の推進を通じて、更にレディース年代の競技会の充実を図る。
  - 「JFA レディース／ガールズサッカーフェスティバル」の実施  
各都道府県協会と連携を図り、独自性を尊重しながら財政補助を中心に様々な形でフェスティバルの開催のサポートを行う。また、JFA アンバサダーとのスケジュール調整を図りながら、都道府県協会のニーズやサッカーの普及のための諸調整を行う。本業務は事業部に業務移管しているが、CHQとしても、JFA アンバサダーの体制をより良くするための提言等、必要なフォローアップを行う。
  - 都道府県協会レベルでの競技会の提供／リーグ戦の導入
  - フットサル／8人制／少人数制サッカーの導入・推進
  - 既存大会の公認化
  - 学校／施設の開放促進と有効活用  
上記の取り組みを実施している「トライアル FA」の活動を推進し、好事例等を集約、積極的に展開を図りながら、競技会の整備・充実に引き続き取り組む。
  - 女子審判員の育成支援・活用  
「トライアル FA」の活動を参考に、審判委員会・審判部等が進めている諸施策と連携を図りながら、各都道府県における好事例等の積極的な集約・展開を引き続き行う。
- **積極的なプロモーション活動**
- メディアへの積極的な展開
  - 「なでしこ」(ネーミング／女子代表選手)を活用した女子サッカー普及活動  
「なでしこ」を活用し、Lリーグ(なでしこリーグ)やその加盟クラブ等、関係各所との協働に努め、女子サッカーの認知度をより高める様、諸施策について検討する。
  - JFA ホームページの積極活用／PRに向けた諸施策の推進  
広報部・事業部と連携を図り、JFA ホームページ・JFAnews 等を活用し、女子サッカーに関する活動等、情報展開に努め、PRに向けての様々な諸施策について検討し、推進する。
- **関係各所との連携**
- 学校・中体連・高体連への働きかけ  
全国高体連加盟に向け、各地域高校代表者による高校女子サッカー活性化協議会のメンバーと連携し、まずは、都道府県毎に個別フォローを行いながら、都道府県高体連加盟促進に向けた働きかけを行う。
  - 支援団体／企業との連携  
事業部・広報部等と連携を図り、女子サッカーに関する活動・実績をもとに、関係する団体／企業と情報交換を図ることや、連携や支援を受けることができる体制の検討を引き続き行う。
- **指導者の養成・活用**
- 指導者の増加
  - 指導者の養成・活用の充実  
JFA 女子委員会と協働しながら、「トライアル FA 制度」や「JFA レディース／ガールズサッカーフェスティバル」等での指導者養成・活用のための諸施策を促進するとともに、トレセンコーチの派遣等を行い、都道府県協会女子委員会の活動を引き続きサポートする。

➤ **組織体制の充実**

- JFA 女子委員会との連携と業務推進体制の強化  
JFA 女子委員会については、将来的には JFA 技術委員会と一体化するものの、当面の間、機能を分離して存続させるという方針を踏まえ、更に機能充実を図り、代表チーム部・技術部・事業部と連携し、多岐にわたる業務の方向性を共有し、業務推進体制の強化を図る。
- 都道府県協会女子委員会の組織充実  
都道府県協会女子委員会の活動・事業について、実態の把握・今後の組織体制の検証を踏まえ、個別にフォローを行いながら組織の充実を促す。

➤ **「トライアル FA 制度」の推進**

- 対象 FA のフォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換を積極的に行い、活動報告書等を通じ、担当者や関係者とのコミュニケーションを密に取りながら活動状況を把握し、JFAnews への掲載等、フォローアップを行う。また、3 年の期間を終了する「トライアル FA」に対して、継続して活動がなされる様フォローアップを検討する。
- 制度の充実と好事例の展開  
対象 FA の活動状況を把握した上で、支援内容の充実や積極的サポートに努め、「トライアル FA 制度」自体の充実を図る。また、対象 FA によるジョイントミーティングを開催し、取り組み・活動等を情報展開し、各都道府県協会での活性化を促す。担当者・各都道府県協会女子委員会・各都道府県協会等、関係各所とのコミュニケーションを密に取りながら組織体制の整備等を視野に入れて取り組む。
- 2008 年度以降の支援策の検討  
対象 FA の活動実態や都道府県協会の要望を踏まえ、2008 年度以降の支援策(対象 FA の拡大・補助金の金額設定・具体的支援内容等)の検討を進める。

## M 7:フットサルの普及推進

---

➤ **競技会の整備・充実**

- 地域／都道府県における競技会(リーグ戦等)増加支援策の検討・実施
- 競技会レベル向上のための施策の検討・実施
- 各種民間大会公認化の検討
- フットサル審判員の育成支援・活用
- 女子への普及促進策の検討・実施

上記 5 項目について、「トライアル FA」の活動を通して、担当者や関係者とのコミュニケーションを取りながら活動状況を把握、JFAnews への掲載等、好事例を展開し、支援内容の充実や積極的サポートに努める。

➤ **普及に向けた登録制度の検証・改革**

フットサル委員会・事業部・登録・普及部と協働しながら、チーム登録の年間を通じた登録制度への移行の検討や、FIFA の登録や移籍に関する規定を検証し、登録制度のあり方から含めた内容を整理し、具体的な改革案の策定について検討する。

➤ **普及と登録者数増に向けた諸施策の実施**

- 地域／都道府県におけるフットサル振興策の検討・実施  
対象 FA の活動を推進し、JFAnews への掲載等、好事例を展開するとともに、フットサルの普及と登録者増に向けた振興策を検討する。

- 指導者の養成・活用と指導者講習会展開の支援  
フットサル委員会・技術委員会と連携しながら、指導者講習会の内容検討・受講促進や都道府県協会独自で開催されるフットサル指導者養成講習会へ指導者を派遣する等、より多くの指導者が養成される支援策を実施する。
- **フットサル施設等との関係整理**
  - 公営の体育館等が利用できない問題を解決するための啓発活動の実施  
日本体育施設協会等と協働して、公営の体育館等が利用できない問題の解決に向け、諸施策を検討する。併せて、フットサル競技の紹介・特性・施設設備に与える影響等を盛り込んだパンフレットの制作を進める。
  - 施設新設時の各種情報提供  
施設が新設される際に、管理者にとって有益となる様な情報の収集・提供ならびにその体制構築に努める。
  - 施設に協力してもらおう形での登録システムの検討と確立  
フットサル委員会と協働して民間大会・民間施設との更なる関係強化を図りつつ、施設登録システムについて検討する。
  - 施設や関連団体との協働体制の確立  
フットサル委員会と連携しながら、日本体育施設協会等と協働して、施設や関連団体に提供できるメリットの検討や協働体制の確立を図る。
- **積極的なプロモーション活動**
  - JFA ホームページやメディア・各種媒体を活用したフットサル登録意義のアピール  
登録制度全般の再検討と併せて、フットサル登録が持つ意義を、様々な方法でアピールする。
  - 国際試合の側面支援も含めた代表チームを活用した認知度向上策の検討  
普及という観点でも、より多くの人に観戦して頂くことが重要となる代表チームの試合を活用する等、認知度を向上するための施策の検討を行う。
- **「JFA ファミリーフットサルフェスティバル」の推進**
  - ファミリーでの活動機会の提供
  - コミュニティへの浸透  
各都道府県協会と充分連携を図り、独自性を尊重しながら財政補助を中心に様々な形でフェスティバルの開催のサポートを行う。特に、都道府県協会の枠を超えたクラブ・地区等の身近なレベルで実施される様な働きかけを行う。また JFA アンバサダーとのスケジュール調整を図りながら、都道府県協会のニーズやサッカーの普及のための諸調整を行う。本業務は、事業部に業務移管しているが、CHQ としても、JFA アンバサダーの体制をより良くするための提言等、必要なフォローアップを行う。
  - 財政面・報道面等でのより充実した支援体制構築  
より多くの地域で実施して頂くための一助となる様、様々な面からの支援体制を検討し、実施する。本業務は、事業部に業務移管しているが、CHQ として必要なフォローアップを行っていく。
- **組織体制の充実**
  - JFA フットサル委員会との連携と業務推進体制の強化  
フットサル委員会との更なる連携を図り、JFA 内の業務推進体制の強化を図る。
  - 委員会と連盟・事務局の役割分担の理解促進  
事業部と連携を図り、フットサル委員会で整理した委員会と連盟・事務局の役割分担の理解促進に努める。
  - 地域／都道府県の委員会組織充実に向けた支援  
各地域／都道府県協会フットサル委員会組織充実に向け、「トライアル FA」を中心に、様々なサポートを行う。

### ➤ 「トライアル FA 制度」の推進

- 対象 FA のフォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換を積極的に行い、活動報告書等を通じ、担当者や関係者とのコミュニケーションを密に取りながら活動状況を把握し、JFAnews への掲載等、フォローアップを行う。
- 制度の充実と好事例の展開  
対象 FA の活動状況を把握した上で、支援内容の充実や積極的サポートに努め、「トライアル FA 制度」自体の充実を図る。また、対象 FA によるジョイントミーティングを開催し、取り組み・活動等を情報展開し、各都道府県協会での活性化を促す。担当者・各都道府県協会フットサル委員会・各都道府県協会等、関係各所とのコミュニケーションを密に取りながら組織体制の整備等を視野に入れて取り組む。
- 2008 年度以降の支援策の検討  
対象 FA の活動実態や都道府県協会の要望を踏まえ、2008 年度以降の支援策(対象 FA の拡大・補助金の金額設定・具体的支援内容等)の検討を進める。

## M 8:リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

### ➤ リーグ戦の推進

- 「都道府県における 2・3 種年代リーグの積極展開」の継続実施  
各都道府県での活動を支援し、JFAnews・JFA ホームページ等を活用し、各都道府県における好事例等を積極的に集約・展開する。また、各都道府県の実施内容をもとに、次年度に向けた制度の見直し・改善を行うとともに、リーグ戦に関する今後の方針を検討・策定する。
- 2・3 種年代以外のカテゴリー(4 種・1 種・シニア・女子等)におけるリーグ戦の推進  
4 種・1 種・シニア・女子等について「モデル FA(キッズ)」・「チャレンジ FA(都道府県)」・「トライアル FA(シニア)」・「トライアル FA(女子)」の実例を参考にしながら、リーグ戦の推進に向けたフォローアップを行う。
- 普及面を重視したリーグ戦の充実(「これからリーグ」・「補欠ゼロリーグ」の促進)
- 強化面を重視したリーグ戦の充実  
「都道府県における 2・3 種年代リーグの積極展開」や各種支援制度・各種国内競技会・地区トレセンリーグ等とリンクしながら、より多くの選手／チームがより多くの試合機会を得られる様な普及面を重視したリーグ戦と、各年代でレベルの拮抗した試合を定期的に行える様な強化面を重視したリーグ戦の推進に向け、事業部・技術部等と連携し、必要な施策を検討・実施する。また、普及面重視・強化面重視の双方のリーグ戦に対応した「競技ガイドライン」の更なる浸透を図る。
- 指導者の意識改革と啓発  
「競技ガイドライン」の普及等に努め、全国の指導者に対し、リーグ戦の意義の十分な理解や意識改革・啓発を図る。
- リーグ関連情報の整理・展開(好事例の展開)  
各都道府県でのリーグ実施・運営の参考となる様、またリーグ戦文化の更なる浸透に向け、「都道府県における 2・3 種年代リーグの積極展開」の制度を中心に、各都道府県でのリーグ関連情報を積極的に整理・展開する。

### ➤ 競技会の整備・充実

- 各種競技会の過密日程の解消  
リーグ戦導入に伴い一部で発生している過密日程の解消および定期的に試合を行うレベルの拮抗したリーグ戦の実施に向け、事業部・技術部等と連携し、都道府県の実態把握・分析および諸施策の検討・実施を行う。

- 年代等に応じた競技ガイドラインの浸透(ピッチサイズ／試合時間／連戦等)
- 競技運営レベルの向上とマニュアルの改訂・展開  
各年代の指導コンセプト・選手の身体的発育度等に応じた適切なプレー環境基準等を明示した「競技ガイドライン」および競技運営に関する各種情報を集約した「JFA 試合運営ガイドブック」について、技術部・事業部等と連携しながら適宜改訂し、関係各所での更なる展開・浸透を図る。
- 全国大会の検証・改善(予選形式／開催地／日程／チーム・選手数／経費等)  
JFA 主催の各種全国大会の参加チーム数・競技ルール・JFA 補助経費等の諸条件を横断的に再検証した上で、大会間の無意味な差異を平準化するとともに、各大会の特性に応じた諸条件を再設定し、各種全国大会の全体的な改善を図る。

## M 9:地域／都道府県協会の活性化

### ➤ JFA と地域／都道府県協会のより強固な関係の創造

- 双方向によるコミュニケーション  
各都道府県協会とは常に対話を大事にし、様々な活動や施策・検討事項に関しても、双方向によるコミュニケーションを取りながら進めていく。また特にグラスルーツに傾注し、サッカーに携わるあらゆる人々とも、双方向によるコミュニケーションを図る。
- 各都道府県協会の積極的な活動のサポート  
様々な支援制度等を通じ、各都道府県協会の積極的な活動をサポートする。また既存の支援制度には当てはまらない各都道府県協会の事業や活動に対して、どの様なサポートが可能であるか検討し、適宜対応する。そして、地域／都道府県協会の対応責任部署として、地域／都道府県協会の更なる活性化に寄与し、日本サッカーのより一層の発展を推進する。
- 都道府県協会の各種会議／イベント／活動への参加  
より広くより深く都道府県協会の実体を把握・理解するために、また各都道府県協会の活動をサポートするために、都道府県協会の各種会議／イベント／活動へ積極的に参加する。
- 都道府県協会ミーティング等の実施  
今年度も47都道府県訪問会議を実施し、昨年度確認した事項のフォローアップおよび新たな取り組みへの対応等について、十分な対話を行う。また会議で抽出された課題については、明確な対応方針や実施事項を策定し、都道府県協会に展開するとともに、JFA の運営にしっかりと反映させ、的確な対応を行う。更に9地域代表理事会議等の各種会議でも、様々な事項に関して積極的な討議を行う。
- JFA と地域協会および都道府県協会の役割分担の整理
- 将来のJFA と地域／都道府県協会のあるべき姿の明確な提示  
「業務指針／マニュアル」の発行等により、上記内容も明確となっており、今後も必要に応じ、将来のJFA と地域／都道府県協会の役割分担・あるべき姿を整理・展開し、共通認識を図る。

### ➤ 都道府県協会組織機構改革の推進

- 組織(支部・地区協会／市区郡町村協会)機構改革と未登録チームの登録推進(CHQ タスクフォースの推進)  
CHQ の重要テーマである「都道府県協会の組織(支部・地区協会／市区郡町村協会)機構改革と未登録チームの登録推進」について、2005 年度末までに策定した組織・登録に関する方針をもとに、2006 年4月から全都道府県協会で行う。JFA としては、各種会議・報告書類等で都道府県協会の活動状況・課題等の実態把握に努め、都道府県協会の活動を積極的に支援する。
- 法人格取得の推奨／推進  
今年度中に全都道府県協会が法人格を取得することを目標とし、法人化に関する情報の公開および個別のフォローを行い、各都道府県協会の活動を推進する。また法人格取得に関する基本還元金制度による支援継続に加え、法人化に向けた支援を行う。

- 事務局体制の充実化  
できる限り早期に全都道府県協会が常勤事務局体制を整備することを目標とし、事業や活動の基盤となる事務局の充実化を推進する。また常勤事務局体制整備に関する基本還元金制度の支援継続に加え、全都道府県協会の体制整備終了後の更なる支援策・補助金を検討すると同時に、都道府県協会の事業への補助による事業規模拡大を通じた事務局の充実・人材の確保を促進する。そして記念事業推進委員会を中心に「JFA スポーツマネジャーズカレッジ」において、2004・2005 年度資格取得者への継続的な支援および 2006 年度受講者の育成を推進し、都道府県協会の事務局体制の充実・人材育成を図る。
  - 会計の透明化  
総務部と連携し、会計に関するガイドラインの最新版(総務部作成中)を都道府県協会に展開した上で、都道府県協会からの問い合わせへの対応や、事務手続きを含めた各都道府県協会の対応整備の働きかけを行う。また収支の予決算について、全都道府県協会が JFA の指導に沿った会計処理を行える様、引き続き働きかけを行う。
  - 委員会／連盟の整理  
JFA・地域協会・都道府県協会における委員会／連盟に関して、必要に応じて具体的役割分担等を明確にする。また、現在 JFA の各種大会部会には、9 地域協会の代表者に参画して頂いているが、大会部会の役割・業務範疇や種別委員会のあり方に関しても検証し、整理する。
  - 機能充実と事業の拡大  
各都道府県協会の組織(総会／理事会／委員会／連盟／支部・地区／市区郡町村協会／事務局等)の機能充実を図る。また JFA からの支援・補助を必要に応じて増加させるとともに、各都道府県協会独自での新たな事業展開(指定管理者制度の導入・マーケティング活動等)による事業規模の拡大を支援する。
- 「業務指針／マニュアル」の策定と展開  
2005 年度上期に発行・展開した「業務指針／マニュアル」について、より効果的な資料とすべく、位置付け・内容を再検証し、各種会議等で抽出された課題への明確な対応方針・実施事項も反映させ、改訂する。そして地域／都道府県協会に展開し、JFA と地域／都道府県協会でその内容を共有するとともに、JFA の運営にしっかりと反映させる。
- 「チャレンジ FA 制度」の推進
- フォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換、活動報告書の提出等を通じ、活動状況を把握することにより、継続的なフォローアップを行う。
  - 制度の充実と好事例の展開  
支援内容の充実や積極的サポートに努め、「チャレンジ FA 制度」自体の充実を図るとともに、現状の制度の課題を検証する。また各種ミーティングの開催や JFAnews・ホームページの活用等を通じて、対象 FA の取り組みを紹介し、他の都道府県協会の参考となる好事例の抽出・展開を積極的に行う。
  - 2007 年度以降の制度の検討  
対象 FA の活動実態を参考にしながら、JFA 内でコンセンサスを得た具体的支援策・補助金の金額設定等の基本コンセプトをもとに、この制度が地域／都道府県協会の更なる活性化に繋がる様、2007 年度以降の制度内容を検討する。



## M10: 中長期展望に立った方針策定と提言

## ➤ 「JFA2005 年宣言」の展開

- JFA の理念・ビジョン・目標の共有  
JFA の理念・ビジョン・目標について、JFA 事務局や都道府県協会の役員が、その内容を充分理解した上で、常に共有し、仕事の意識を高めていく様、更に働きかける。JFA 事務局員に対して実施した意識調査をもとに、現状の組織・人事に関する問題点を把握・分析した結果を踏まえて、具体的な施策に取り組んでいく。
- 「JFA2005 年宣言」「DREAM～夢があるから強くなる～」の浸透  
「JFA2005 年宣言」や「DREAM～夢があるから強くなる～」について、様々な方法で展開、日本サッカーの取り組みを多くのサッカーファミリーに浸透させる。都道府県協会においては、既に展開した浸透/PR ツール(パッケージ)が有効に活用される様、具体例の提示を含めて推進する。また、映画「GOAL!」の告知や、国内のみならず海外にも積極的に PR し、将来のブランド戦略を視野に入れた JFA ブランドイメージの確立についても引き続き検討する。
- 具体的な取り組み  
JFA においては、「アクションプラン 2015」「業務プラン 2008」を一人一人が常に意識し、日常の業務に取り組む様、更に努める。事務局員の意識調査結果フィードバック等を通じて、部長間のコミュニケーション促進・人事研修プログラム・業務遂行管理等の具体的な取り組みを実施し、事務局全体がより活性化される様に働きかける。また、都道府県協会においては、「キャプテンズ・ミッション」を中心に策定された具体的なアクションプランの好事例を紹介しながら、より多くの都道府県協会の取り組みに反映される様、各種会議や様々な機会を通じて、引き続き意識付けを行っていく。

## ➤ 目標達成に向けた具体的な方針策定の検討

- 既存業務の課題の抽出
- 新規事業等の新たな企画立案  
常に中長期展望に立った広い視野を持って日本サッカー界の動向を見据え、JFA や都道府県協会が目標達成に向けて行っている既存の業務内容の検証や、取り組むべき新規事業・施策を検討し、課題の抽出や新たな企画の立案を行う。特に、各部署・J リーグ・他関連団体と連携して、日本サッカー界全体の事業規模拡大に向けての具体的な施策の検討を進める。
- 関係各所(各委員会/各連盟/各部署/都道府県協会等)に向けた提案  
抽出した課題や立案した新たな企画を整理し、具体的な方針策定の検討を行い、関係各所(各委員会/各連盟/各部署/都道府県協会等)に向けた提案を行う。

## ➤ 該当部署の決定および具体的な提言と調整・管理

- 該当部署の提案・承認
- 具体的な提言内容の策定
- 業務調整・管理  
目標達成に向けた方針策定の検討に際して、その該当業務の実行部署(各委員会/各連盟/事務局各部署/都道府県協会等)を必要に応じて定め、該当部署により具体的な提言内容を策定する。CHQ として業務の諸調整を行うとともに、業務の進捗管理等が該当部署にて徹底される様、役割分担を明確にする。

➤ CHQ フューチャープロジェクトの推進

M10 に関する具体的な方針策定や提言内容を CHQ メンバーとともに検討することを主目的とし、地域／都道府県協会の人材を集結させる。特に、JFA(中央)の観点だけではなく、都道府県協会(地域)の観点からも日本サッカーの将来を見据え、より広くより深く検証を行うことにより、JFA や都道府県協会が抱える既存の課題の抽出や新規事業等の新たな企画立案を引き続き行っていく。また、こうした人材にプロジェクトへ参加して頂くことにより、JFA 業務に関する当事者間の情報共有と参画意識を醸成し、そして、JFA としても人材の確保・有効活用に繋げていく。このプロジェクトでは、「JFA2005 年宣言」の具現化に加え、各種支援制度の継続計画や都道府県協会の事業規模拡大(自主採算確立・他事業との連携等)、更には施設の確保・活用(指定管理者制度の活用)等の具体策について、議論していく。

➤ 「トライアル FA(シニア)制度」の推進とシニア年代の活性化

- 対象 FA のフォローアップ  
対象 FA の活動視察や情報交換、ジョイントミーティング等を通じ、担当者や関係者とのコミュニケーションを密に取りながら活動状況を把握することにより、継続的なフォローアップを行う。
- 制度の充実と好事例の展開  
対象 FA の活動状況を把握した上で、支援内容の充実や積極的サポートに努め、制度の更なる充実を図る。また JFAnews やホームページの活用等を通じ、他の都道府県協会の参考となる好事例等を積極的に抽出・展開する。
- 2007 年度以降の制度／支援策の検討  
対象 FA の活動実態を参考にしながら、2007 年度の制度内容(対象 FA・補助金の金額設定等)および 2008 年度以降の支援策自体を検討する。
- 関連団体・都道府県協会等との連携  
シニア大会部会・事業部等と連携しながら、既存のシニア関連団体・都道府県協会等からの意見の十分な把握および積極的な情報交換・連携等を常に図り、シニア年代の活性化に繋げる。

※ 現段階にて検討すべきであると考えられる業務

- 国際試合の実施(開催スタジアム)計画
- 国際大会の開催招致計画の策定
- 国際貢献／アジア貢献策の検討(FIFA／AFC 役員選挙対応)
- AFC プロリーグ委員会／プロジェクトの推進
- Jリーグ将来構想委員会のサポート
- スポーツマネジャーの養成・活用
- 日本サッカー界全体の事業規模拡大
- こころのプロジェクトのサポート
- ……………
- ……
- …

以上